

Q1 印象に残っている言葉は？

A1

好きこそものの
上手なれ

子供の頃は理科や数学は好きではありませんでした。木が大好きで秘密基地やブランコを作っていて、将来は大工になりたいと思っていました。大学では建築を専攻する予定でしたが、大学3年生の時に磯貝明先生と出会い、実験や解析の面白さに気付き、研究者を目指しました。そして授業で話していたセルロースに興味を持ち、磯貝先生の研究室の門を叩きました。

将来のことは特に考えず直感でここまで来ましたが、好きなこと、熱中できることをするのは重要だと思います。今は大学教員という立場で、学生と接する機会が多くあります。その中で意識しているのは、熱中するきっかけを作ることです。同じ課題でも、学生が面白いと感じるポイントはそれぞれです。そのポイントを掘り下げることが新しい発見につながることもありますから、1人1人の感性を大切にするように心がけています。

Q2 現在の研究テーマは？

A2 木材から作る新しい材料の開発

鋼鉄の5分の1の重さで5倍強いといわれる、木材由来の新素材であるセルロースナノファイバーの研究開発に取り組んでいます。環境への負荷も軽減できるため、さまざまな用途での活用が期待されています。しかし液中に分散しているセルロースナノファイバーを固体材料にすることは非常に難しく、費用の問題もあるため、現



さきがける 科学人

vol.93

木材の可能性を求めて 歩んできた研究人生

東京大学 大学院農学生命科学研究科
准教授

齋藤 継之
Saito Tsuguyuki

Profile

埼玉県出身。2008年 東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。博士(農学)。日本学術振興会特別研究員、東京大学大学院農学生命科学研究科助教を経て、13年より現職。

在は化粧品などにおける水系添加剤での実用化がほとんどで、強度を生かした用途で実用化された例はごくわずかです。

費用削減を目指すのはもちろんですが、少し高価でも需要がある材料を作る新しい方法を提案したいと考えています。樹脂補強では、従来の10分の1の使用量で効率よく性能を発揮させたり、セルロースナノファイバーにしかできない付加価値を生み出したりといったことです。他の研究者との共同研究で広く可能性を探っていますが、電気自動車の窓で使用する透明断熱材など、将来性のある用途はあると思っています。

セルロースナノファイバーの研究は今、正念場だといわれています。10年以上基礎研究を続けてきましたが、産業で扱える手法には至っていません。大学と産業界、双方の手法を擦り合わせることで社会課題の解決につながると思っています。木材の可能性を求めてさらに研究を進め、低炭素社会の実現に貢献したいと考えています。

Q3 休日の過ごし方は？

A3 家族との時間を楽しむ

家事と子育てに奮闘する日々です。子供は小学4年生で、一緒にゲームを楽しんだり、勉強を教えたり、実験教室に連れていったりすることもあります。実験教室の先生はとても話が上手で、授業の参考になっています。

子供が実験を楽しんでいることは研究者としてとても嬉しいです。いろいろなことに出合っていく中で、進路に迷うこともあると思いますが、その時はじっくりと悩んで考えて、自分の好きなことに挑戦してほしいですね。



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

R70

古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

JST news

January 2020

発行日/令和2年1月14日

編集発行/国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)総務部広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3サイエンスプラザ

電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432

E-mail/jstnews@jst.go.jp JSTnews/https://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー